

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172400257		
法人名	株式会社やま		
事業所名	グループホームうららびより関ヶ原		
所在地	岐阜県不破郡関ヶ原町関ヶ原3384－3		
自己評価作成日	令和7年2月5日	評価結果市町村受理日	令和7年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2172400257-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地
訪問調査日	令和7年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①季節感のある手作りの食事には大いにアピールしたい。盛り付けや彩りに職員の工夫が随所に見られる。
 ②体調不良、状態の変化には速やかに管理者に連絡があり医師への連携対応につなげ重篤化を防いでいる。
 ③外出や買い物支援で自立自己決定の場を今後増やして行く企画がある

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者と共に皆が明るい笑顔と思いやりのある暮らしが送れるように取り組んでいる。職員主体にならないよう話す時は、相手の言葉を一呼吸おいて待つように心がけている。何もできない人と決めつけず、持てる力を引き出し、家事活動やレクリエーションに活躍できる場面を作り、楽しみながら出来ることを維持してあきらめないケアを目指している。家族とは、利用者の健康状態や日常の様子をこまめに伝え「安心できる」と感謝の言葉もあり、信頼関係を築いている。地域の代表者には、事業所の理解を深めるための通信や避難訓練の案内など「回覧しますよ」と協力して下さり、近隣住民の参加も得ることが出来、地域との繋がりを大切にしている。職員同士の助け合い、目標の達成を評価した表彰制度、外部講師を招いた研修など働きやすい環境の中人材育成を大切にしている事業所である。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に職員で考えた理念を掲示し住みなれた地域で暮らし続けるを念頭に置き「お互いの動きを知った声掛けを、その方の言葉を一呼吸おいて待ちます」を振り返りの基としている。	職員は、利用者が住み慣れた地域で暮らし続ける意義を理解して、職員・利用者共に明るい笑顔と思いやりのある日々を過ごせるように取り組んでいる。理念に沿った目標を立て会議で振り返り、評価をしている。理念について話す機会も設けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染対策を講じながら、近隣との交流や家族面会、外出外泊支援、喫茶外出を始めている。	散歩時に挨拶したり、野菜をもらったりしている。コンビニや喫茶店、買い物に出かけたりしての交流がある。ふれあいセンターの一室を借りてモーニングや図書館を利用している。保育園児に歌を聞かせてもらい、楽しい時間を過ごしている。通信や避難訓練の案内を回覧板で廻してもらっている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域近隣の方に施設内を知って頂く取り組みとして防災訓練に消防署立ち合いのもと参加いただいた。車いすや歩行が不安定な方がどの部屋に居る等分かりやすく表にしたりして施設内の見学や実際の災害時に望む事、また地域に施設が出来る事をお聞きた。	会議では、事業所の状況や活動報告、事故やクレームを詳細に説明して対策や勉強会を行っていることを報告している。参加者から質問や意見、助言などが出ている。災害時の安全な避難についての意見から利用者の介護区分と居室を表で作成し今年度の避難訓練に活かしている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	既存建物風呂改修に行政の助言得られ補助金申請が通りユニットバス設置が出来た。	行政担当者とは、補助金申請や書類提出などに出向いたり、メールや電話で連絡を取り合って協力関係を築いている。研修会にも参加している。包括支援センターが行う年2回の介護相談には窓口担当者として出席している。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の対象となる具体的事例について勉強会職員会議で担当委員が中心になり実践的に考え行動できるようにしている。またお互いに「拘束に当たらないかどうか」声かけできるチームづくりを目指している。	委員会を定期的に行い、内部と外部講師による研修を全員が受けている。骨折術後で坐位の保持が困難な利用者に医師・家族と話し合っ職員が一人の時間に車椅子を使用する時間のみ安全ベルトを使用している。朝食準備時間のみに減少し、努力の様子はうかがえるが、記録がない。	委員会や会議で話し合った拘束の経過など議事録の作成は、必須である。早急に作成することが望まれる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止研修を全職員が参加できる様オンライン研修など利用している。権利擁護委員中心に継続的に勉強会を開催している。	事業所及び関連事業所の事例を参考に会議や委員会、研修会で話し合い、虐待に繋がる行為の共通認識に努めている。虐待とはどんなものか継続して学ぶことを行い、職員の様子にも気を配り、モチベーションを上げられる環境にして虐待防止に努めている。		

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括主催で行われる成年後見人制度研修に参加予定(3/14)		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には詳細を説明し理解いただいたうえで契約を結んでいる。改定時は書面で承認確認している。経過とともにお互いに都度納得いくよう話し合いが必要になった時は十分な説明を行う。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会や毎月のお手紙、うらら新聞、運営推進会議議事録を送り本人の様子施設運営状況をお知らせしており、随時家族の要望には面会時の対面、電話、メール、zoomなどの方法で状況に応じ対応している。	利用者には、日々の関わりの中で要望に込えている。家族とは、多種のツールを用いて利用者の状況や暮らしの様子を伝え意見や要望を聞いている。動画や写真を見て返信もある。体操のメニューに要望を取り入れたり、携帯電話の使い方を教えたりして利用者の楽しみや喜びに繋げている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、職員個人面談、都度日々の業務内でも管理者は意見を訊く機会を持つようにしている。	職員と話しやすい関係を築き、日常的に提案や要望を聞いている。利用者の担当を3ヶ月毎に交代して見方が変わることによって新しい気づきもあり支援に活かしている。高額な物品購入は、本社と相談して対応している。業務改善の提案を促し、職員間で投票した採用案を表彰している。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	評価査定は個人自己評価、管理者評価、本社評価へ繋がる様整備されている。就業条件においては本人のライフワークバランスに最大限配慮し急な体調不良や休みにもお互いに助け合える職場整備に努めている。	職員の体調や家庭事情に配慮して勤務調整をしている。子育て中の職員への配慮もしている。ベトナムの実習生には、日本語や習慣、食事の味付けなど不安な部分を手助けして介護職員としての成長を応援している。連休や急な休みにも職員同士助け合い働きやすい環境の職場である。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修スキルアップ、大学からの講師派遣等で働きながらスキルアップを目指している。介護福祉士受検推奨し、初任者研修は研修代法人負担、法人内人財育成研修には施設代表で職員の参加を予定している。	内部・法人内研修、外部研修、講師を招いた研修と学ぶ機会が充実している。年6回行う外部講師を迎えての研修は、研修の補助金制度を使ってスキルアップや質の向上に努めている。資格取得の研修は、法人の補助制度もあり、推奨し応援している。	

グループホームうららびより関ケ原

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループ内施設訪問や本部からの視察や会議を通じ情報交換はあるが、同業者との交流は今後取り組んでいきたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしをともにする感覚は大事にしたい。支援する人される関係は一面であり、その方の处世術を見守り口出ししない、傾聴共感する姿勢と介入のタイミングや対応術を職員どうし共有している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思っている事望んでいる事、やりたい事、嫌な事、不安に思う事を日頃の声掛けや会話をとおしてケース記録に残し、できるだけ本人の言った言葉として残している。	日々の生活での声かけや会話から思いを聞いている。発語の少ない方には、表情や挨拶した時の様子で耳元で声をかけたりして思いや希望を聞いている。起床時間ややりたいことなど利用者の思いを大切に支援している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の心身の状態変化に応じる為朝夕の申し送り、記録ケース申し送りをタブレットで迅速に共有を図っている。現場では即対応変更や意見の繁栄をモニタリングできる様にしている。申し送りノート(手書き)も活用している。	面会や電話、受診時に家族の要望を聞いている。個別記録やカンファレンスの意見を基にモニタリングを行い、6ヶ月毎に介護計画の見直しをしている。状態の変化時は、医師の意見も取り入れ見直し期間を3ヶ月毎にして現状に合う計画に努めている。モニタリングの結果を記録で確認出来なかった。	モニタリング表を作成して介護計画作成時にモニタリングをスムーズに活かせるよう期待したい。
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有タブレットを活用し集約された個別記録から日々の変化に対応実践へ反映している。	個別のケース記録には、利用者の状態や様子、発した言葉、実践したケアなど記録している。申し送りを口頭とノートにも記録し全員に伝達できるようにして情報を共有している。ケース記録を介護計画の見直し時に活用している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型通所介護や、ショートステイ(空室利用)で在宅での生活を継続しながらできるだけ切れ目ないように変化あった時は居宅ケアマネ、家族への連絡を行っている。	デイサービスや空室を利用してショートステイも行っている。家族の依頼で受診の同行や車椅子利用者の送迎支援もしている。買い物など利用者の希望に合わせて個別に出かけている。	

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活歴や地域での活動、お付き合いしてきた方々との繋がりを緩やかでも継続できるよう地域に向けて新聞折り込み発行やSNS発信で施設のようにすを発信し来訪につながればと考えている。長く地域で生花の先生をされた方には季節の生け花を定期的にどこか地域で飾れる支援をしたい。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、本人家族、訪問看護と連携、情報共有は密に電話faxでとっている。施設提携医や、他のかかりつけ医とも医療情報データの共有を図り24時間モニターや採尿に関しても協力し納得いく受診支援に努めている。	入居前のかかりつけ医を家族の付き添いで受診している利用者もいる。職員が同行することもあり、情報は共有している。かかりつけ医、協力医、訪問看護師と連携して利用者の健康管理をしている。急変時は、それぞれの医師の指示のもと対応している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院医療機関の利用者様には早期の退院受け入れに向けて病院へのサマリー提供、入院前後の情報共有、収集はしている。面会が可能な場合や退院カンファレンスには必ず参加。	入院時は、利用者の状態をサマリーで提供し担当者と電話で連絡を取り合って情報交換をしている。面会にも行き利用者の状態を確認している。退院時のカンファレンスには、必ず家族と一緒に参加して希望にそって安心できるよう支援している。事業所の看護師が参加することもある。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から本人に(この先の)暮らし方あり方への考えや思っている事を言葉の端々から聞き取るようにしている。高齢の方の急変の際にも慌てない様終末期に向けての本人家族意向、施設の方針を共有する機会を年1回は聞き取りしている。	入居時に事業所の方針を説明し、状態の変化に応じて話し合い意向の再確認をしている。看取りを希望されると医師からの説明と方針を話し合って同意書を交わしている。医師・訪問看護師・職員・家族が協力して終末ケアに取り組んでいる。看取りケアの研修を定期的に行うよう計画している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応時、救急搬送手順など慌てない様救急カード、サマリーをファイル、実践マニュアルの確認は職員会議で行っている。DNA Rの周知していくのが今後の課題。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCP災害対策の研修、通報、避難訓練の実施。食料備品の備蓄、避難マニュアルの周知(避難場所、連絡先一覧の整備)	夜間想定、通報や消火訓練を含め年2回避難訓練を実施している。今回は、消防署立会いのもと住民の参加も得て行った。近隣住民へ災害時をお願いしたいことを文書でも伝え協力体制づくりに努めている。期限前の備蓄食を食べて平常から防災備蓄の意識を持つようにしている。	

グループホームうららびより関ヶ原

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには注意しその方に応じて対応しているが高度認知症の方には言葉以外ノンバーバルコミュニケーションに配慮している。対応が困難な時もある。訪室の際のノックや、介助のはじめには確認の声かけに努めている。	一人ひとりを尊重した言葉かけや対応に心がけ、入浴や排泄介助時は、必ず扉を閉めるように気を付けている。居室の表札に花の名前を使い、申し送りなど他の利用者にわからないように名前を使用せずプライバシーに配慮している。掲示や通信に写真を使用することの了承を得ている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身の選択がその方々能力を鑑みオープン又は閉じられた選択がスムーズなのか等時々に合わせ「自分で決める」を提供できるよう努めている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れと利用者の動き、気分やペース体調を見ながら、了解を得られ日常生活が送れるよう働きかけに努めている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事を楽しむ工夫や会話を取っている。季節感を大切に旬の食材を使って、普段の食事とハレの日の献立とメリハリをつけ盛り付けに気を払っている。簡単な下準備、後かたづけ、手伝いを行っていたい。	本社から届く献立を参考に、利用者の好みを取り入れ収穫した野菜を使って調理している。手作りにこだわり、彩りも考えて食事を楽しむ工夫をしている。誕生日や季節行事は利用者のセレクトメニューにしている。準備や片付けを一緒に行い、職員も同じ物を一緒に食べ食事を楽しんでいる。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量記録。特段に水分量の管理が必要となられた方(デイや体調の変化あった時)は詳細な記録を取り(居宅ケアマネにも)医師訪看と共有。体重減少や体調に合わせて栄養補助食ゼリー等使用。体重管理(毎月、随時)栄養スクリーニング(2/年)行う。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは個々に合わせて行い口腔内清潔保持に努める。状態が悪い場合訪問歯科に見て頂き処置診療に繋げている。	毎食後、出来る人は自分で行い磨き残しの確認や義歯の洗浄など利用者の口腔状態に応じて支援している。気になることは、歯科医師に連絡し早期の治療に繋げている。訪問歯科診療を受けている利用者もあり、歯科衛生士よりケアの指導や助言を受けている。	

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表確認し状況に応じ時間誘導、声掛けを行う。排泄状況評価し布パンツに変更している方もあれば、全身状態の変化に伴ってリハパンツ使用の方もいる。「トイレで排泄できる」を目指している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や時間帯は職員の配置都合になりがちである。入浴が苦手な方、毎日でも入りたい方等おられ担当者が日々総合的に入浴担当者とすり合わせしながら決めている。機械浴、普通浴と時々体調に配慮し変更も可能、安全にまた職員とのふれあいの中でリラックスでき入浴後は気持ち良かったと言っていたら嬉しい。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で布団で寝起きされていた方は、まだ起居動作に問題が無いため布団対応。基本自由に居室で横になって休んで頂いているが、必ず声かけしてホールへのいざないをし閉じこもりを防いでいる。寝具のシーツ交換、布団干しは定期的に行い記録残す。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更追加は体調変化に応じ医師の指示にて行っており、眠剤、下剤調整指示あれば行い状態観察フィードバックで医師の指示を仰ぐ。職員周知は手書き申し送り、タブレットで共有。	事業所の看護師が薬の管理をしている。準備・服薬・服薬後の確認までダブルチェックを行い、誤薬・落薬・飲み忘れ防止に努めている。薬の変更や追加は申し送りノートなどで情報を共有し、服薬後の状態を医師に報告している。訪問看護師にも伝えている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事分担(下膳茶碗拭き等)、それぞれの得意、歌が好き上手な方には歌唱レクで率先して声かけ歌い出しリードして頂く、リハビリ体操に熱心な方は前方に席を用意している。生花の先生しておられた方には施設の生花を依頼、今後お花のレクに広げていきたい。	食事・洗濯・掃除など生活の中に出てくることを役割としている。歌や体操など好きなことをレクリエーションに取り入れ活躍できる場面を作っている。生け花を教えていた利用者に正月花を売ってもらおうなど趣味や得意なことを活かして楽しめるように支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族協力にて外出や外泊の希望をかなえて貰える様にしている。全員が一斉に外出は中々困難であるが、ユニット毎に喫茶、ドライブ初詣、紅葉狩り、花見等季節外出を行事に組み込んでいる。	散歩や買い物、喫茶店に出かけている。ウッドデッキでお茶やひなたぼっこをして外気に触れ気分転換にも努めている。ドライブに出かけ花見や初詣、外食なども楽しんでいる。お盆や年末の墓参り、外泊などには、家族の協力を得て支援している。	

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人管理できる方はある程度の金額を所持している。職員と外出かねて買い物に行く場合もあるがまれである。今年度より移動スーパーの「はじ丸」利用を試験的に開始。施設テラスで買い物ができるようにし、自分自身で選びお金を支払う場面を持ちたいと考えている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	形態電話を所持されている方は使い方など困ったときはお手伝いし家族様からの電話取次もしている。年賀状、寒中見舞い、暑中見舞いもレクの一つとして支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花を飾り、季節を感じるしつらえを心がけている。不快なおい防ぐトイレ、洗面所、水回りの清掃、消毒は定期的にし空調管理、換気にも感染予防配慮怠らず。日光の入り具合は白内障の方にも注意している。	玄関やリビングに花を飾り季節感を採り入れている。清掃や換気をこまめに行い感染予防に配慮し快適に過ごせるようにしている。畳の部屋があり、他の利用者と離れたい時や洗濯物たたみをしている。ソファでテレビを見たり、雑誌を読んだり思い思いに過ごせるよう支援している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファは誰でも座れるように彩り館は中央に配置、和み館はテーブルを囲むように配置している。自席から離れがたく自分の場所にこだわりのある方には本人が動き出されるまで待ち、ホールの決まったソファに着席頂ける支援を行っている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家で使っておられたタンスや備品を置いている。家族が衣替えをされる場合本人と一緒に過ごして頂いている。感染対策都合もあるが希望される方には家族とのだんらん、居心地の良い時間として捉えている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内に場所が分かる目印、円背の方には背もたれクッションを手作りその方に合わせ作成し褥瘡予防、悪化防止対策をする。杖の置き場工夫し場所の確保で安全な立ち上がり歩行を確保している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172400257		
法人名	株式会社やま		
事業所名	グループホームうららびより関ヶ原		
所在地	岐阜県不破郡関ヶ原町関ヶ原3384－3		
自己評価作成日	令和7年2月5日	評価結果市町村受理日	令和7年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2172400257-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地
訪問調査日	令和7年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に職員で考えた理念を掲示し住みなれた地域で暮らし続けるを念頭に置き「お互いの動きを知った声掛けを、その方の言葉を一呼吸おいて待ちます」を振り返りの基としている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染対策を講じながら、近隣との交流や家族面会、外出外泊支援、喫茶外出を始めている。			
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域近隣の方に施設内を知って頂く取り組みとして防災訓練に消防署立ち合いのもと参加いただいた。車いすや歩行が不安定な方がどの部屋に居る等分かりやすく表にしたりして施設内の見学や実際の災害時に望む事、また地域に施設が出来る事をお聞きました。			
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	既存建物風呂改修に行政の助言得られ補助金申請が通りユニットバス設置が出来た。			
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の対象となる具体的事例について勉強会職員会議で担当委員が中心になり実践的に考え行動できるようしている。またお互いに「拘束に当たらないかどうか」声かけできるチームづくりを目指している。			
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止研修を全職員が参加できる様オンライン研修など利用している。権利擁護委員中心に継続的に勉強会を開催している。			

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括主催で行われる成年後見人制度研修に参加予定(3/14)		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には詳細を説明し理解いただいたうえで契約を結んでいる。改定時は書面で承認確認している。経過とともにお互いに都度納得いくよう話し合いが必要になった時は十分な説明を行う。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会や毎月のお手紙、うらら新聞、運営推進会議議事録を送り本人の様子施設運営状況をお知らせしており、随時家族の要望には面会時の対面、電話、メール、zoomなどの方法で状況に応じ対応している。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、職員個人面談、都度日々の業務内でも管理者は意見を訊く機会を持つようにしている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	評価査定は個人自己評価、管理者評価、本社評価へ繋がる様整備されている。就業条件においては本人のライフワークバランスに最大限配慮し急な体調不良や休みにもお互いに助け合える職場整備に努めている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修スキルアップ、大学からの講師派遣等で働きながらスキルアップを目指している。介護福祉士受検推奨し、初任者研修は研修代法人負担、法人内人財育成研修には施設代表で職員の参加を予定している。		

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループ内施設訪問や本部からの視察や会議を通じ情報交換はあるが、同業者との交流は今後取り組んで行きたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしをともにする感覚は大事にしたい。支援する人される関係は一面であり、その方の处世術を見守り口出ししない、傾聴共感する姿勢と介入のタイミングや対応術を職員どうし共有している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思っている事望んでいる事、やりたい事、嫌な事、不安に思う事を日頃の声掛けや会話をとおしてケース記録に残し、できるだけ本人の言った言葉として残している。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の心身の状態変化に応じる為朝夕の申し送り、記録ケース申し送りをタブレットで迅速に共有を図っている。現場では即対応変更や意見の繁栄をモニタリングできる様にしている。申し送りノート(手書き)も活用している。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有タブレットを活用し集約された個別記録から日々の変化に対応実践へ反映している。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型通所介護や、ショートステイ(空室利用)で在宅での生活を継続しながらできるだけ切れ目ないように変化あった時は居宅ケアマネ、家族への連絡を行っている。		

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活歴や地域での活動、お付き合いしてきた方々との繋がりを緩やかでも継続できるよう地域に向けて新聞折り込み発行やSNS発信で施設のようなすを発信し来訪につながればと考えている。長く地域で生花の先生をされた方には季節の生け花を定期的にどこか地域で飾れる支援をしたい。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、本人家族、訪問看護と連携、情報共有は密に電話faxでとっている。施設提携医や、他のかかりつけ医とも医療情報データの共有を図り24時間モニターや採尿に関しても協力し納得いく受診支援に努めている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院医療機関の利用者様には早期の退院受け入れに向けて病院へのサマリー提供、入院前後の情報共有、収集はしている。面会が可能な場合や退院カンファレンスには必ず参加。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から本人に(この先の)暮らし方あり方への考えや思っている事を言葉の端々から聞き取るようにしている。高齢の方の急変の際にも慌てない様終末期に向けての本人家族意向、施設の方針を共有する機会を年1回は聞き取りしている。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応時、救急搬送手順など慌てない様救急カード、サマリーをファイル、実践マニュアルの確認は職員会議で行っている。DNA Rの周知していくのが今後の課題。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCP災害対策の研修、通報、避難訓練の実施。食料備品の備蓄、避難マニュアルの周知(避難場所、連絡先一覧の整備)		

グループホームうららびより関ケ原

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには注意しその方に応じて対応しているが高度認知症の方には言葉以外ノンバーバルコミュニケーションに配慮している。対応が困難な時もある。訪室の際のノックや、介助のはじめには確認の声かけに努めている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身の選択がその方々能力を鑑みオープン又は閉じられた選択がスムーズなのか等時々に合わせ「自分で決める」を提供できるよう努めている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れと利用者の動き、気分やペース体調を見ながら、了解を得られ日常生活が送れるよう働きかけに努めている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事を楽しむ工夫や会話を取っている。季節感を大切に旬の食材を使って、普段の食事とハレの日の献立とメリハリをつけ盛り付けに気を払っている。簡単な下準備、後かたづけ、手伝いを行っていたいっている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量記録。特段に水分量の管理が必要となられた方(デイや体調の変化あった時)は詳細な記録を取り(居宅ケアマネにも)医師訪看と共有。体重減少や体調に合わせて栄養補助食ゼリー等使用。体重管理(毎月、随時)栄養スクリーニング(2/年)行う。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは個々に合わせて行い口腔内清潔保持に努める。状態が悪い場合訪問歯科に見て頂き処置診療に繋げている。		

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表確認し状況に応じ時間誘導、声掛けを行う。排泄状況評価し布パンツに変更している方もあれば、全身状態の変化に伴ってリハビリパンツ使用の方もいる。「トイレで排泄できる」を目指している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や時間帯は職員の配置都合になりがちである。入浴が苦手な方、毎日でも入りたい方等おられ担当者が日々総合的に入浴担当者とすり合わせしながら決めている。機械浴、普通浴と時々体調に配慮し変更も可能、安全にまた職員とのふれあいの中でリラックスでき入浴後は気持ち良かったと言ってもらえると嬉しい。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で布団で寝起きされていた方は、まだ起居動作に問題が無いため布団対応。基本自由に居室で横になって休んで頂いているが、必ず声かけしてホールへのいざないをし閉じこもりを防いでいる。寝具のシーツ交換、布団干しは定期的に行い記録残す。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更追加は体調変化に応じ医師の指示にて行っており、眠剤、下剤調整指示あれば行い状態観察フィードバックで医師の指示を仰ぐ。職員周知は手書き申し送り、タブレットで共有。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事分担(下膳茶碗拭き等)、それぞれの得意、歌が好き上手な方には歌唱レクで率先して声かけ歌出しリードして頂く、リハビリ体操に熱心な方は前方に席を用意している。生花の先生しておられた方には施設の生花を依頼、今後お花のレクに広げていきたい。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族協力にて外出や外泊の希望をかなえて貰える様にしている。全員が一斉に外出は中々困難であるが、ユニット毎に喫茶、ドライブ初詣、紅葉狩り、花見等季節外出を行事に組み込んでいる。		

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人管理できる方はある程度の金額を所持している。職員と外出かねて買い物に行く場合もあるがまれである。今年度より移動スーパーの「はじ丸」利用を試験的に開始。施設テラスで買い物ができるようにし、自分自身で選びお金を支払う場面を持ちたいと考えている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	形態電話を所持されている方は使い方など困ったときはお手伝いし家族様からの電話取次もしている。年賀状、寒中見舞い、暑中見舞いもレクの一つとして支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花を飾り、季節を感じるしつらえを心がけている。不快なおい防ぐトイレ、洗面所、水回りの清掃、消毒は定期的にし空調管理、換気にも感染予防配慮怠らず。日光の入り具合は白内障の方にも注意している。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファは誰でも座れるように彩り館は中央に配置、和み館はテーブルを囲むように配置している。自席から離れがたく自分の場所にこだわりのある方には本人が動き出されるまで待ち、ホールの決まったソファに着席頂ける支援を行っている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家で使っておられたタンスや備品を置いている。家族が衣替えをされる場合本人と一緒に過ごして頂いている。感染対策都合もあるが希望される方には家族とのだんらん、居心地の良い時間として捉えている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内に場所が分かる目印、円背の方には背もたれクッションを手作りその方に合わせ作成し褥瘡予防、悪化防止対策をする。杖の置き場工夫し場所の確保で安全な立ち上がり歩行を確保している。		